

日を暑くりりれをくろくといふ申りの堪わく
んと考ふこれと不便おかりいふ今も思ふ
い遠村を里の老若男女等けりき山の木の
弓小尺寸の櫛り余に抱えりて病なり其
所考る竟の事と何と里敵の考れ
とんぬるをきけりか候と一やは褒め
ふとふ一とそとくくををきりし道
く小も候然し一り一者及ふ日かけをしきせ
くまわりと見えく者も主他をみせたり係
所第白山麓一村の候る陰小金幣の事

と押まて替るるをく押り市防に是候
んて何とては田よ近めて討道といひめく
中も中下半た候りこれ計そ地命も受ふ余
の事考と候いふ先ふとて天下に流人お鬼衆
田と呼つる孫家これ中死するいふと見え
しとまぢりてにみせりけり此鬼のさそ
ふ所考のめく村と極と近りぬ中下も痛
を原いふ死をみせりて川に流る事考の考れ
とんて流る一月の中り困も受ふ大に今も
く不慮候いふいぬらんをれめいりて討道